

第6章 キャリアコンサルティングの効果①

—個人属性および相談内容との関連

1. キャリアコンサルティングの効果

キャリアコンサルティングの効果をいかに示すかは永く課題となってきた。本章では、その課題に答えるべく、キャリアコンサルティング経験がある者を対象として、キャリアコンサルティングの効果について、いくつかの観点から分析を行う。

具体的には、「相談したことで問題は解決したか」「相談したことでキャリアや職業生活は変化したか」「相談して良かったか」「相談してその後の職業やキャリアに役立ったか」の4つの質問を行った。また、問題が解決したか否かでは「どのように解決したか」、変化したか否かでは「どのような面で変化したか」も追加でたずねた。さらに、賃金や労働時間の変化については特別に質問項目を設けてたずねた。

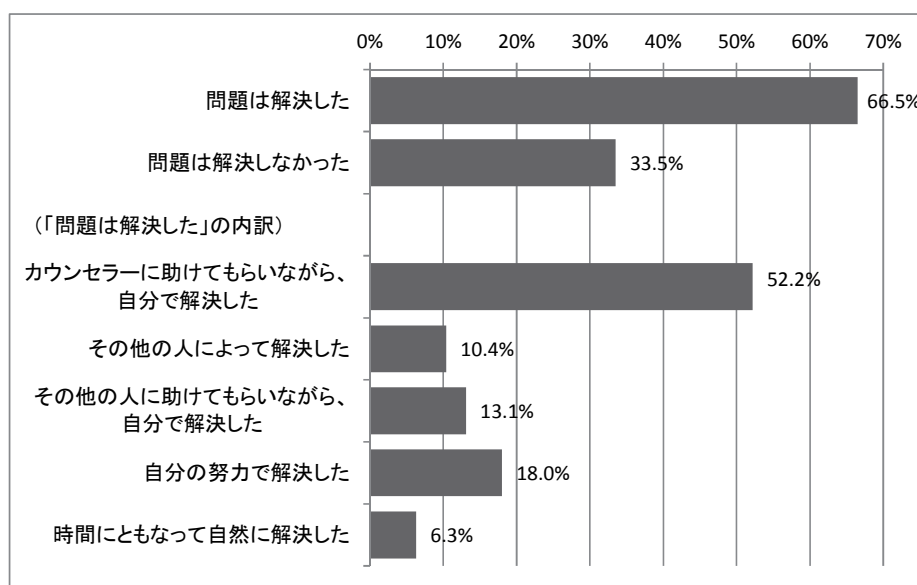
以下、上述の質問に対する回答を順に示す。

まず、図表6-1に、「相談したことで問題は解決したか」という設問に対する回答を示した。「問題は解決した」(66.5%)、「問題は解決しなかった」(33.5%)で、キャリアや職業に関する相談を行った回答者のおおむね2/3が何らかの形で問題は解決したと回答した。

「相談したことで問題は解決したか」の設問には、さらに追加質問があり、具体的にどのように問題が解決したかについて回答を求めた。

その結果、具体的には「カウンセラーに助けをもらいながら、自分で解決した」(52.2%)、「自分の努力で解決した」(18.0%)、「その他の人に助けをもらいながら、自分で解決した」(13.1%)の回答が多かった。

図表6-1 問題は解決したか

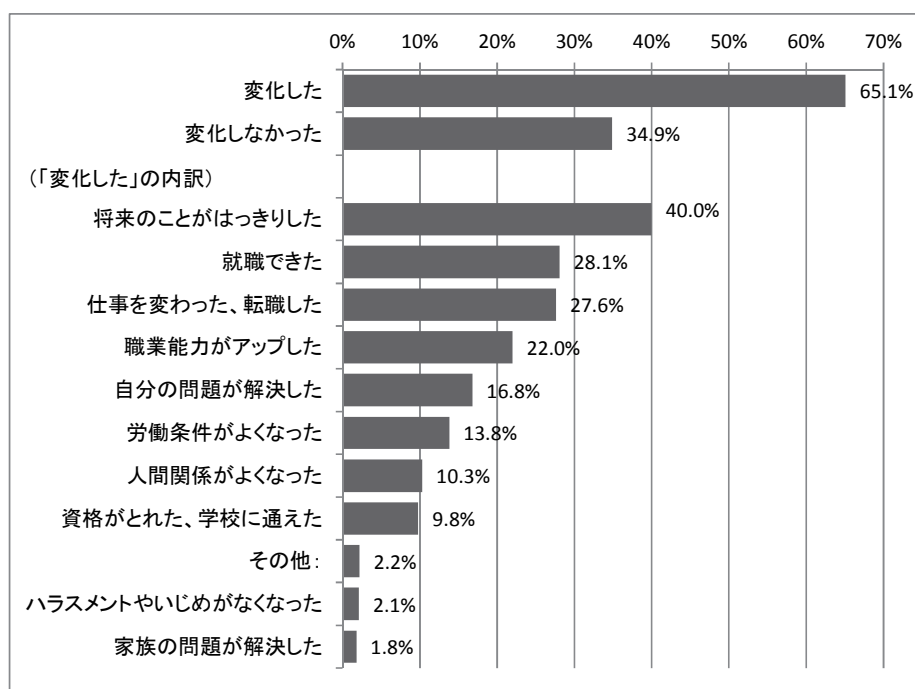


基本的には自分で解決したとする回答が多いが、一方で「問題は解決した」と回答した者のうち5割強はカウンセラーの支援を受けたと回答した。また、1割強はその他の人（上司、人事部門の担当社員、公的機関または大学キャリアセンターの職員、友人・家族）に助けしてもらったと回答した。あわせて6～7割が何らかの他者の支援を受けながら自分で問題を解決したと言える。

図表6-2には、「相談したことでキャリアや職業生活は変化したか」という設問に対する回答を示した。「変化した」（65.1%）、「変化しなかった」（34.9%）で、約2/3の回答者が何らかの形で相談後に変化があったと回答した。図表6-1の「相談したことで問題は解決したか」と類似の数値となった。

この設問についても、さらに追加質問があり、具体的にどのように変化したかについて回答を求めた。その結果、具体的には「将来のことがはっきりした」（40.0%）が最も多かった。以下、「就職できた」（28.1%）、「仕事を変った、転職した」（27.6%）、「職業能力がアップした」（22.0%）と続いていた。

図表6-2 キャリアや職業生活は変化したか



なお、図表6-3には、相談したことによる賃金の変化および労働時間の変化を示した。どちらも「変わらない」という回答が6～7割で、相談したことによる賃金や労働時間の変化はおおむね無かったと解釈される。

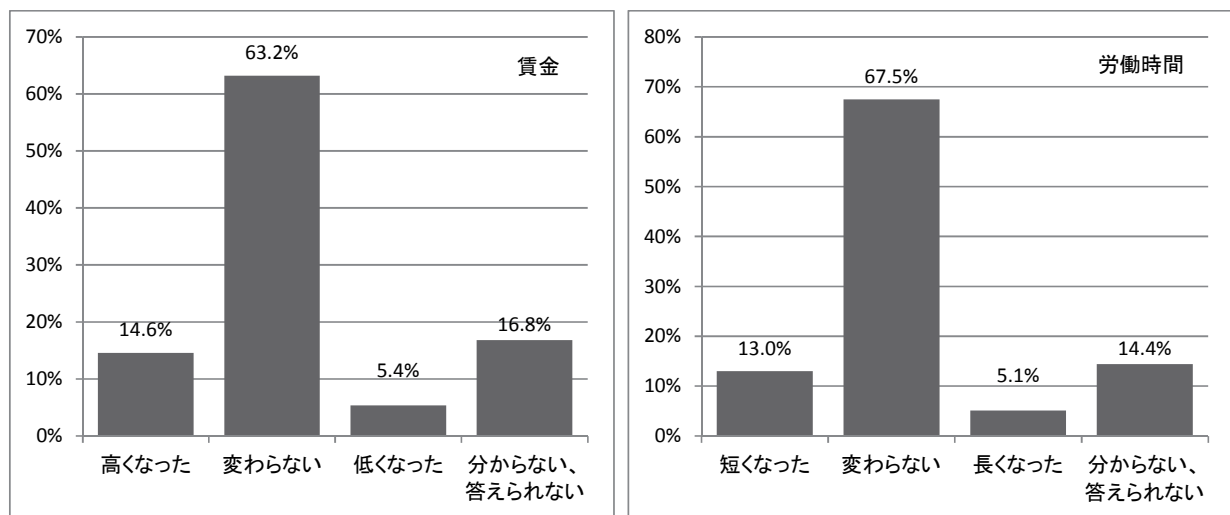
ただし、賃金が「高くなった」と回答した者に、さらに「だいたいどのくらい賃金はアップしましたか」という質問を行い、月額何千円ぐらいかを回答してもらった結果、平均値は65,200円、中央値は30,000円で、数万円単位の上昇があったという回答がみられた。一方で

「低くなった」と回答した者に、さらに「だいたいどのくらい賃金はダウンしましたか」と回答してもらった結果、平均値は 89,170 円、中央値は 50,000 円であった。

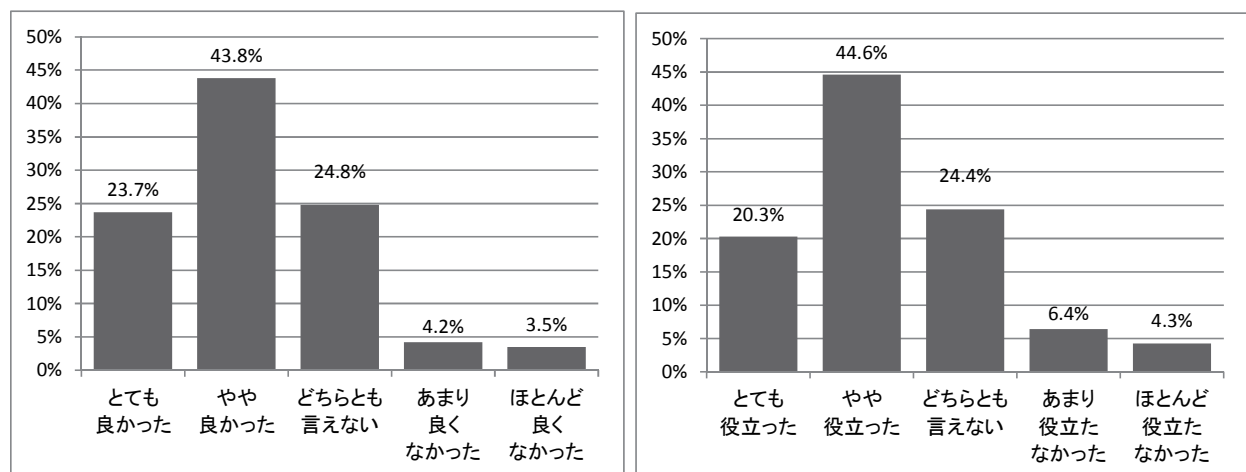
また、労働時間が「短くなった」と回答した者に、「だいたいどのくらい労働時間は短くなりましたか」という質問を行い、月に何時間ぐらいかを回答してもらった結果、平均値は 28.2 時間、中央値は 20 時間であった。一方、「長くなった」と回答した者に、「だいたいどのくらい労働時間は短くなりましたか」という質問を行った結果、平均値は 25.6 時間、中央値は 10 時間であった。

図表 6-4 には、「相談をして良かったですか」(左)、「その後の職業やキャリアに役立ちましたか」の設問に対する回答を示した。「相談をして良かったですか」については「やや良かった」(43.8%) の回答が最も多く、「とても良かった」とあわせて 67.5% であった。一方、「相談をして、その後の職業やキャリアに役立ちましたか」についても「やや役立った」(44.6%) の回答が最も多く、「とても役立った」とあわせて 64.9% であった。

図表 6-3 相談による賃金の変化(左)、労働時間の変化(右)



図表 6-4 相談して良かったか(左)、役立ったか(右)



2. 個人属性別のキャリアコンサルティングの効果

「相談したことで問題は解決したか」「相談したことでキャリアや職業生活は変化したか」「相談して良かったか」「相談して役立ったか」の4つの質問を中心に個人属性との関連を検討した。どのような個人属性をもつ回答者で特にどのような面で効果があるのかを分析することで、キャリアコンサルティングの効果の基本的な情報が得られると考えられた。

ただし、分析当初に予想されたほどには、個人属性とキャリアコンサルティングの効果には明確な関連がみられなかった。これはキャリアコンサルティングに効果がないということではなく、キャリアコンサルティングの効果は個人特性にはあまり左右されないということである。むしろ、次節あるいは次章以降で検討する具体的な相談内容、どこで相談したか（相談場所・機関）、誰に相談したか（相談担当者）といった相談の具体的な状況によってキャリアコンサルティングの効果は異なるようであった。

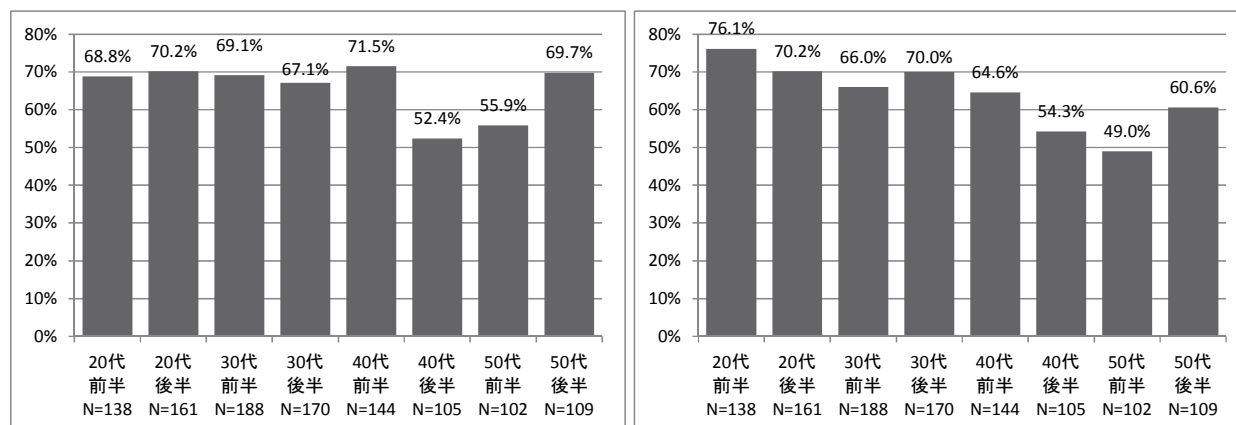
しかしながら、一方で、若干ながらも個人属性によってキャリアコンサルティングの効果に違いがみられる場合があったので、以下に主だった結果のみを示すこととする。

(1) 年齢別のキャリアコンサルティングの効果

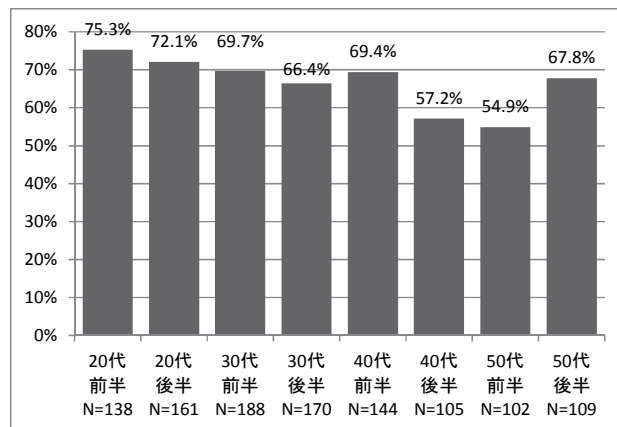
まず、概して年齢でキャリアコンサルティングの効果に違いがみられた。具体的には、図表6-5～図表6-6に示すとおり、概して年齢が若いほど「相談したことで問題は解決した」「相談したことでキャリアや職業生活は変化した」「相談して良かった+やや良かった」と回答する割合が高く、40代後半、50代後半で最も低かった。

これは、20代の回答者の主な相談内容は、他章で示したとおり、おもに学生時代の就職活動であり、基本的に学生時代の就職活動の相談は解決しやすい問題であり、キャリアや職業生活に変化したと感じられやすいためであると推測される。一方で、40代後半～50代後半にかけての相談内容には、リストラや離転職などの解決が難しい問題の他、長い職業生活やキャリアの中で解決できなかった問題が多く含まれるため、この年代では「問題は解決した」「変化した」「良かった」という回答になりにくかったものと推移される。

図表6-5 年齢別の「問題は解決した」(左)と「キャリアや職業生活は変化した」(右)



図表6-6 年齢別の「相談して良かった+やや良かった」

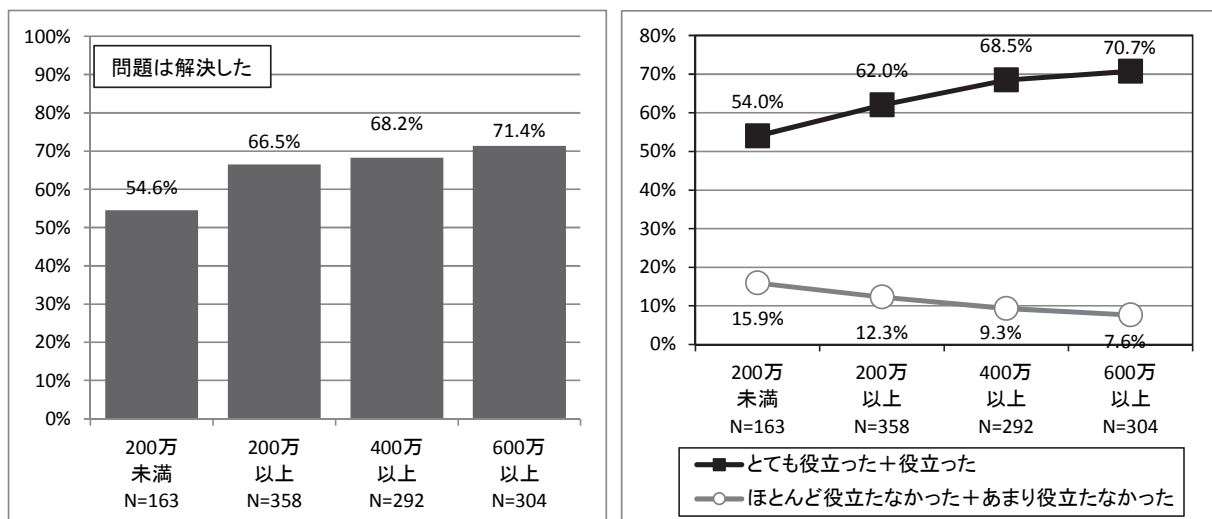


(2) 年収別のキャリアコンサルティングの効果

年収とも関連がみられた。図表6-7に示すとおり、最近1年間の個人年収（税込み）の値が低いほど「問題は解決した」と回答する者が少なかった。また、個人年収が低いほど「役立った」と回答する者は少なく、「役立たなかった」と回答する者が多かった。

個人年収の低さは、勤務先属性および個人属性の両面から影響を受けるため解釈が難しいが、次項でみる満足感とともに人のキャリア形成を考える上での2大指標となる収入と満足感でキャリアコンサルティングの効果との関連が明確に示された点は重要である。

図表6-7 個人年収別の「問題は解決した」(左)、「相談して役立った」(右)



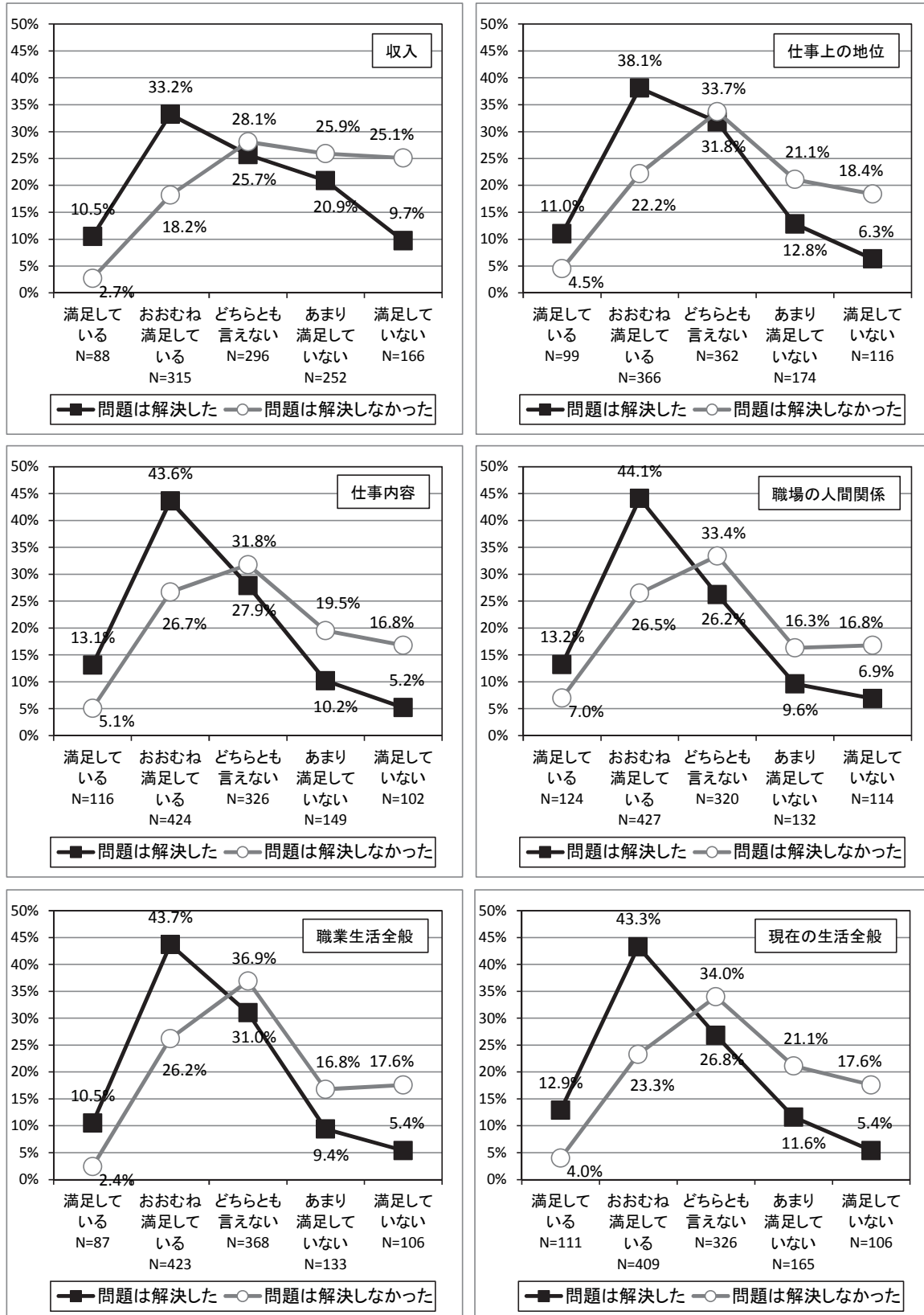
(3) キャリア意識別のキャリアコンサルティングの効果

さらに、キャリア意識と「問題は解決したか」「キャリアや職業生活は変化したか」「相談して良かったか」「相談して役立ったか」にも、かなり強い関連が示された。

例えば、図表6-8には、現在の満足感と「問題は解決した」の関連を図示した。過去にキャリアの相談をしたことで「問題は解決した」と回答した者は、「収入」「仕事上の地位」

「仕事内容」「職場の人間関係」「職業生活全般」「現在の生活全般」のいずれの満足感でも、「満足している」「おおむね満足している」との回答が多かった。

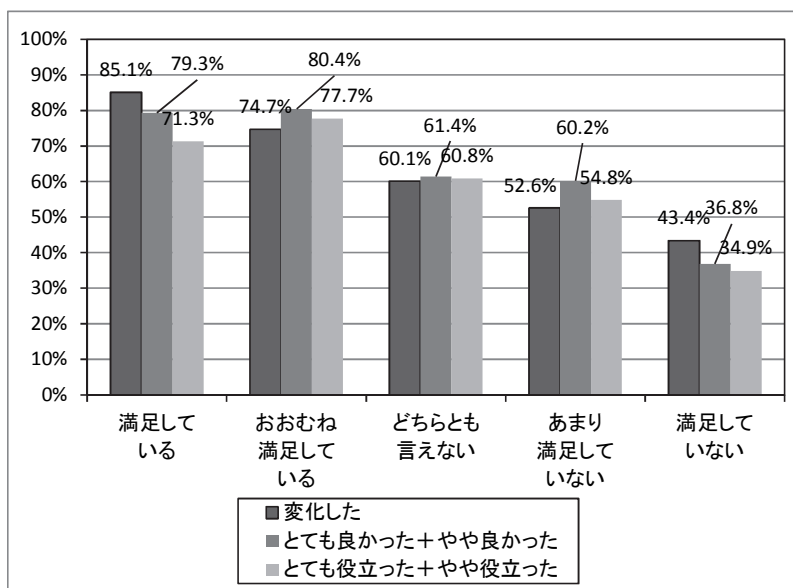
図表6-8 現在の満足感と「問題は解決した」



こうした結果は、「キャリアや職業生活は変化したか」「相談して良かったか」「相談して役立ったか」に関するもすべて見られており、図表6-9に示したとおり、「満足している」から「満足していない」にかけて、ほぼ直線的な関連がみられている。

職業やキャリアに関する過去の問題が解決し、それによってキャリアや職業生活に変化があり、そのために相談をして良かった、役立ったと感じているからこそ、現在の様々な状況に満足しているか、あるいは、逆に現在、結果的に満足しているからこそ、過去の相談の経験を良く評価しているのだとも言えるが、いずれにせよ、過去の相談経験は現在の満足感と極めて直線的・直接的な結びつきがあることは示されたかと思われる。

図表6-9 現在の満足感と
「キャリアや職業生活は変化した」「相談して良かった」「相談して役立った」



これらの結果は、総じてキャリア意識全般に見られるものであり、図表6-10に示したとおり、「生涯を通じたキャリア計画」「求められる職業能力が知らされているか」「キャリア開発に職場は協力的か」「職業能力は他社でも通用するか」と、「問題は解決したか」「キャリアや職業生活は変化したか」「相談して良かった」「相談して役立ったか」は、それぞれ1%水準で統計的に有意な相関係数がみられた。1,000人規模のサンプルサイズのデータとしては、0.2~0.3の相関係数の値は小さくはなく、一定の関連が見られていたと言える。

図表6-11には、なかでも特に強い関連がみられた「相談して役立ったか」に関する主だった結果を図示した。相談して役立ったと考える割合は、①生涯を通じたキャリア計画について「自分でキャリア計画を考えていきたい」と考えている者ほど、②求められる職業能力が「十分に知らされている」と考えている者ほど、③職場はキャリア開発に「協力的」と考えている者ほど、④自分の職業能力は他社でも「通用すると思う」者ほど高く、これらの指標とは直線的な相関関係がみられた。

図表6-10 現在の満足感と「キャリアや職業生活は変化した」「相談をして良かった」

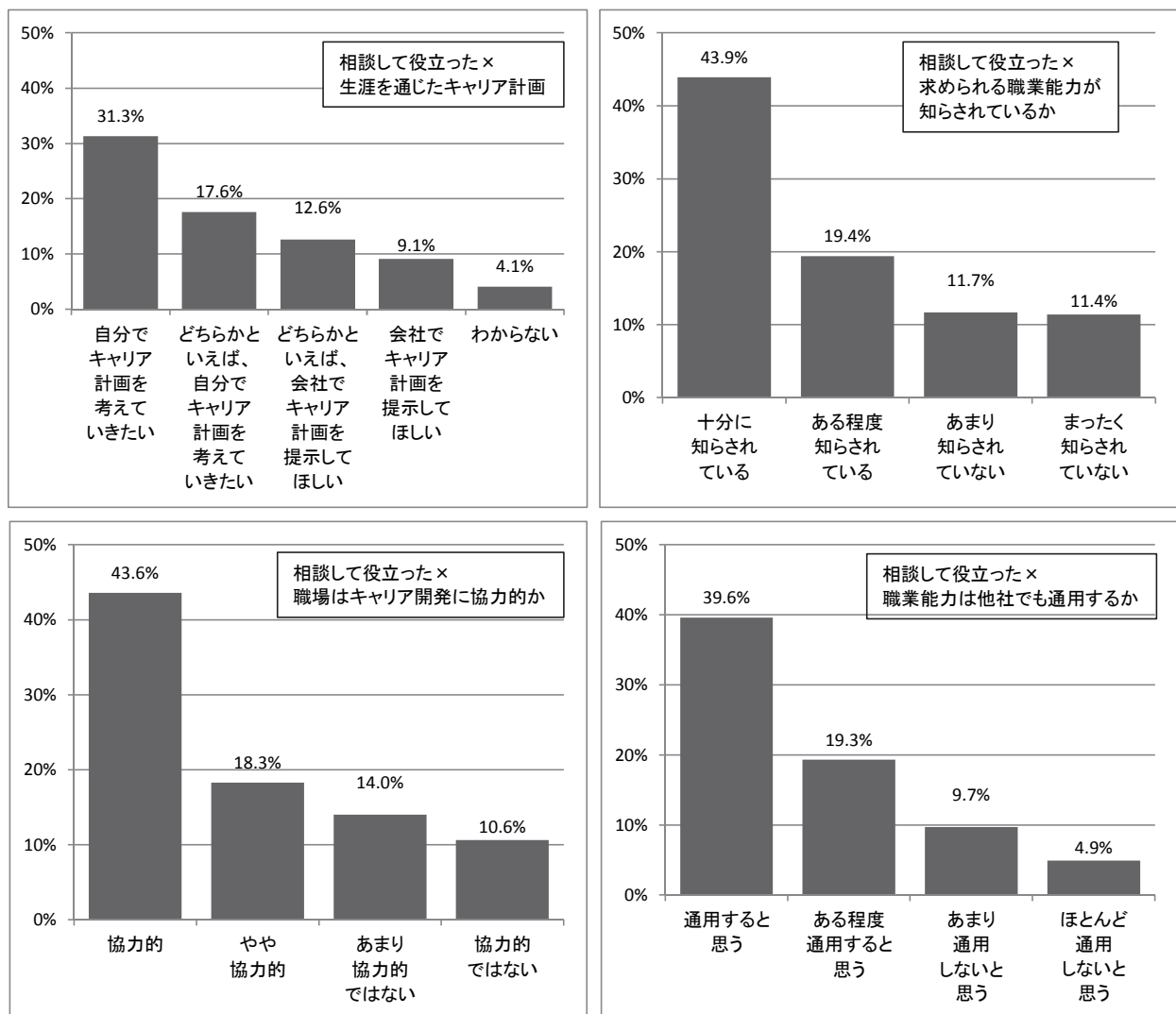
「相談をして役立った」

| | 問題は解決したか | キャリアや職業生活は変化したか | 相談して良かったか | 相談して役立ったか |
|------------------|----------|-----------------|-----------|-----------|
| 生涯を通じたキャリア計画 | 0.161 | 0.195 | 0.228 | 0.220 |
| 求められる能力は知らされているか | 0.224 | 0.241 | 0.275 | 0.281 |
| キャリア開発に職場は協力的か | 0.251 | 0.213 | 0.257 | 0.297 |
| 職業能力は他社でも通用するか | 0.218 | 0.235 | 0.263 | 0.300 |

※数値はスピアマンの順位相関係数。すべて1%水準で有意。

図表6-11 現在の満足感と「キャリアや職業生活は変化した」「相談をして良かった」

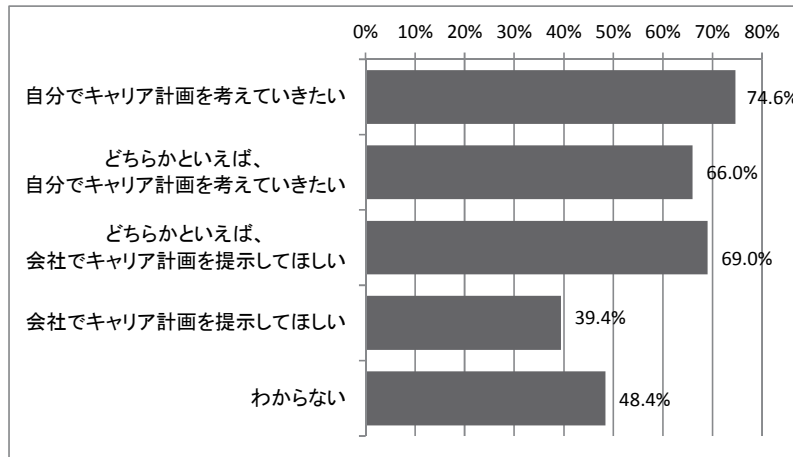
「相談をして役立った」



こうした図は、他の指標でも同様に示すことができ、「キャリアや職業生活は変化した」と考えているほど、「相談して良かった」と考えているほど、「自分でキャリア計画を考えていきたい」と考えているほど、求められる職業能力は「十分に知らされている」と考えているほど、職場はキャリア開発に「協力的」であると考えているほど、自らの職業能力は「通用

すると思う」と回答していたほど、「問題は解決した」と考えていた（例えば、図表6-12参照）。

図表6-12 生涯を通じたキャリア計画と「問題は解決した」



なお、類似の結果として、「職業能力習得に必要なこと」に関する質問項目と「相談して役立った」には明確な関連性がみられた。図表6-13に示すとおり、相談して「とても役立った」と回答した者は「自発的な能力向上のための取り組みを行うことが必要」と回答した割合が他に比べて相対的に高かった。一方で「今の仕事の内容のままでよいと考えているので、さらに職業能力を身につける必要はない」との回答も他に比べて相対的に高かった。また、「やや役立った」と回答した者は「通常の業務をこなしていくことで必要な能力が身につく」と回答した割合が他に比べて相対的に高かった。一方、キャリアコンサルティングが「ほとんど役立たなかった」あるいは「どちらとも言えない」と回答した者では「今後、どのような職業人生にするか決めかねている」「わからない」との回答が相対的に多かった。

図表6-13 職業能力習得に必要なことと「相談して役立った」¹

| | とても役立った N=227 | やや役立った N=498 | どちらとも言えない N=272 | あまり役立たなかった N=72 | ほとんど役立たなかった N=48 | 合計 |
|--|------------------|-----------------|--------------------|--------------------|---------------------|--------|
| 今の仕事の内容のままでよいと考えているので、さらに職業能力を身につける必要はない | 11.9% | <u>3.8%</u> | 3.7% | 5.6% | 8.3% | 5.7% |
| 通常の業務をこなしていくことで必要な能力が身につく | 27.8% | 30.9% | 21.3% | 22.2% | <u>10.4%</u> | 26.5% |
| 会社が提供する教育訓練プログラムに沿って能力向上を図ることが必要 | 6.2% | 11.0% | 11.0% | 5.6% | 6.3% | 9.5% |
| 自発的な能力向上のための取り組みを行うことが必要 | 46.7% | 37.6% | 31.3% | 38.9% | 29.2% | 37.6% |
| 今後、どのような職業人生にするか決めかねている | <u>5.3%</u> | 11.0% | 16.5% | 16.7% | 22.9% | 12.1% |
| わからない | <u>2.2%</u> | <u>5.6%</u> | 16.2% | 11.1% | 22.9% | 8.6% |
| 合計 | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% |

※1%水準で統計的に有意に値が大きい箇所を網掛け、有意に値が小さい箇所に下線を付した。

¹ 本報告書では、クロス表の分析にあたって、 χ^2 検定を行って1%水準で統計的に有意か否かの確認を行った後、

以上の結果から、キャリアコンサルティングの効果は、自発的な職業能力開発か現状維持かの如何にかかわらず、何らかの職業能力習得に向けた指針を明確にする点あるという考察ができる。逆に、キャリアコンサルティングが役立ったと感じられなかったことと、今後の職業人生をどうするかが現時点で不明確であることに一定の関連性がみられると言える。

なお、上述以外の性別、配偶者の有無、最終学歴、就業状況、雇用形態、勤続年数、現在の仕事内容、勤務先全体の従業員数、現在の役職、就労時間と「問題は解決したか」「キャリアや職業生活は変化したか」「相談して良かったか」「相談して役立ったか」では統計的に有意な結果が示されなかった。

基本的に、年齢や収入、意識といった側面ではキャリアコンサルティングの効果に関する質問項目との関連がみられたが、それ以外の質問項目とは関連がみられなかった。

1%水準で有意となった表について残差分析を行い、1%水準で統計的に有意に値が大きいセルまたは有意に値が小さいセルについて解釈を行う手法を用いた。クロス表の分析の後、残差分析を行って、クロス表のどこに特徴があるのかを確認する手法は、統計手法としては一般的であるが、表頭および表側のNの数と照らして期待される数値（期待値）からどの程度大きいか（あるいは小さいか）という言わば「歪み」を検討する統計手法であるため、表の見た目の%の大小関係と直感的にずれる場合がある。そこで、本報告書では便宜上、「相対的に」「他と比較して」のように表記をして、可能な限り表の見たと齟齬のないように記述することを試みた。ただし、本来、当該クロス表が統計的に有意である（≒表頭と表側に関連がみられている）のは、表中の網掛けまたは下線部分に統計的に有意な対応関係があるからであり、そこにこそ特徴的な結果が示されると解釈する方が正確である。本報告書ではクロス表を解釈するにあたって、表面上の大小関係ではなく、むしろ統計的に有意な結果である網掛けまたは下線部分に着目するよう留意されたい。

3. 相談内容別のキャリアコンサルティングの効果

図表6-14には、相談内容別に「問題は解決したか」の回答を示した。先に示したとおり、基本的には、どのような相談内容でも「問題は解決した」という回答が多かった。ここでは、そうした全体の傾向と比較して特に統計的に有意な結果が見られるかを検討した。

その結果、「問題は解決した」の回答が統計的に有意に多かったのは「資格取得」であった。一方、「問題は解決しなかった」の回答が統計的に有意に多かったのは「精神面の病気・不調」であった。概して、資格取得に関する相談は他の相談内容と比べても特に問題解決につながったと解釈される。一方で、精神面の病気・不調は、なかなか解決しにくい問題であったと考えられる。

ただし、統計的に有意な箇所は全体として多くなく、相談内容別の問題解決の傾向には大きな違いはみられなかったと言える。

図表6-14 相談内容別の「問題は解決したか」

| | 問題は解決した | 問題は解決しなかった |
|--------------------------|---------|------------|
| 学生時代の就職活動 N=166 | 74.7% | 25.3% |
| (学生時代以外の)就職活動、求職活動 N=121 | 66.9% | 33.1% |
| 転職 N=601 | 67.1% | 32.9% |
| 会社の倒産・リストラ N=42 | 50.0% | 50.0% |
| 定年後の就職、仕事 N=31 | 74.2% | 25.8% |
| その他(職業選択) N=14 | 64.3% | 35.7% |
| 自分の職業の向き不向き N=277 | 65.0% | 35.0% |
| モチベーション・アップ N=204 | 66.7% | 33.3% |
| 職業能力の開発・能力アップ N=184 | 69.0% | 31.0% |
| 資格取得 N=112 | 78.6% | 21.4% |
| 進学・留学など N=28 | 67.9% | 32.1% |
| 将来のキャリア計画 N=165 | 66.7% | 33.3% |
| 仕事内容 N=394 | 65.7% | 34.3% |
| 賃金や処遇 N=246 | 64.6% | 35.4% |
| 残業や労働負荷 N=125 | 71.2% | 28.8% |
| 配置転換・出向・転籍 N=67 | 68.7% | 31.3% |
| 昇進・昇格 N=50 | 70.0% | 30.0% |
| 職場の同僚との人間関係 N=98 | 66.3% | 33.7% |
| 職場の上司との人間関係 N=151 | 60.9% | 39.1% |
| 職場の部下との人間関係 N=47 | 63.8% | 36.2% |
| 職場外の人との人間関係 N=33 | 66.7% | 33.3% |
| 人間関係以外の仕事上のトラブル N=29 | 58.6% | 41.4% |
| 精神面の病気・不調 N=119 | 52.9% | 47.1% |
| その他の病気・入院 N=38 | 63.2% | 36.8% |
| 家族の介護 N=28 | 53.6% | 46.4% |
| 結婚・出産・育児 N=44 | 59.1% | 40.9% |
| その他の個人的な深刻な悩み N=37 | 64.9% | 35.1% |

※1%水準で統計的に有意に値が大きい箇所に網掛け、統計的に有意に値が小さい箇所に下線を付した。なお、Nの数によって違いがあるため、単純に%の値が大きい箇所が統計的に有意にならない。N=5以下の相談内容については表から割愛した。

図表6-15には、相談内容別に「どのように問題は解決しましたか」の回答を示した。基本的にはどの相談内容についても「カウンセラーに助けをもらいながら、自分で解決した」という回答が多かった。そうした全体の傾向と比較して特に統計的に有意な結果が見られるか否かを検討した。

その結果、「カウンセラーに助けをもらいながら、自分で解決した」との回答が、他に比べて統計的に有意に多いのは「転職」「自分の職業の向き不向き」であった。なお、前表では「精神面の病気・不調」について「問題は解決しなかった」との回答が多かったが、本表は「問題は解決した」のサブクエスチョンであるため、問題が解決した場合にはカウンセラーの支援を受けつつ自分で解決したという回答が多かったと解釈される。

「その他の人によって解決した」との回答が、他に比べて統計的に有意に多かったのは「モチベーション・アップ」「配置転換・出向・転籍」「職場の部下との人間関係」「その他の病気・入院」であった。この設問では「その他の人」は（上司、人事部門の担当社員、公的機関または大学キャリアセンターの職員、友人・家族など）と注記したが、ここで列挙した人物によって解決されたと想定される。特に、モチベーション、配置転換・出向・転籍、人間関係などの職場関連の相談内容はおもに上司や人事等の職場の人間が解決に寄与したと解釈される。一方、病気・入院などは家族が解決に貢献したと想定される。

「その他の人に助けをもらいながら、自分で解決した」の回答が、他に比べて統計的に有意に多かったのは「その他（職業選択）」「将来のキャリア計画」「残業や労働負荷」「その他の個人的な深刻な悩み」であった。他者の支援を得て自ら解決したのは、職業能力開発、進学・留学、キャリア計画など、キャリア関連の相談内容が多かった。また、残業や労働負荷や個人的な悩みも他者の支援を得て自分で解決することが多いようであった。

以上、相談内容別に「どのように問題は解決したか」を検討した結果、①カウンセラーの支援を受けて自分で解決したもの、②その他の人によって解決したもの、③その他の人の支援を受けて自分で解決したものの3つに大きく分かれることが示される。それぞれ、転職や自分の職業の向き不向きはカウンセラーの支援＋自力、モチベーションアップや人間関係などの職場関連の問題はその他の人（職場の人間等）の支援、将来のキャリア計画や残業などについては他者の支援プラス自ら解決といった整理ができるようであった。

図表6-15 相談内容別の「どのように問題は解決したか」

| | カウンセラーに助けをもらいながら、自分で解決した | その他の人によって解決した | その他の人に助けをもらいながら、自分で解決した | 自分の努力で解決した | 時間ともなって自然に解決した |
|-------------------------|--------------------------|---------------|-------------------------|------------|----------------|
| 学生時代の就職活動 N=124 | 46.0% | 12.9% | 16.1% | 16.9% | 8.1% |
| (学生時代以外の)就職活動、求職活動 N=81 | 56.8% | 12.3% | 14.8% | 6.2% | 9.9% |
| 転職 N=403 | 56.3% | 7.4% | 11.9% | 19.9% | 4.5% |
| 会社の倒産・リストラ N=21 | 52.4% | 14.3% | 14.3% | 14.3% | 4.8% |
| 定年後の就職、仕事 N=23 | 26.1% | 21.7% | 13.0% | 26.1% | 13.0% |
| その他(職業選択) N=9 | 22.2% | 0.0% | 77.8% | 0.0% | 0.0% |
| 自分の職業の向き不向き N=180 | 60.0% | 7.8% | 16.7% | 10.6% | 5.0% |
| モチベーション・アップ N=136 | 58.1% | 19.1% | 9.6% | 9.6% | 3.7% |
| 職業能力の開発・能力アップ N=127 | 52.8% | 12.6% | 18.9% | 13.4% | 2.4% |
| 資格取得 N=88 | 43.2% | 11.4% | 17.0% | 26.1% | 2.3% |
| 進学・留学など N=19 | 31.6% | 21.1% | 31.6% | 15.8% | 0.0% |
| 将来のキャリア計画 N=110 | 55.5% | 5.5% | 22.7% | 11.8% | 4.5% |
| 仕事内容 N=259 | 54.8% | 8.9% | 16.6% | 14.7% | 5.0% |
| 賃金や処遇 N=159 | 50.3% | 8.8% | 18.2% | 18.9% | 3.8% |
| 残業や労働負荷 N=89 | 53.9% | 13.5% | 22.5% | 9.0% | 1.1% |
| 配置転換・出向・転籍 N=46 | 41.3% | 23.9% | 21.7% | 13.0% | 0.0% |
| 昇進・昇格 N=35 | 48.6% | 8.6% | 20.0% | 22.9% | 0.0% |
| 職場の同僚との人間関係 N=65 | 53.8% | 18.5% | 6.2% | 16.9% | 4.6% |
| 職場の上司との人間関係 N=92 | 53.3% | 13.0% | 19.6% | 10.9% | 3.3% |
| 職場の部下との人間関係 N=30 | 46.7% | 30.0% | 10.0% | 6.7% | 6.7% |
| 職場外の人との人間関係 N=22 | 54.5% | 27.3% | 4.5% | 9.1% | 4.5% |
| 人間関係以外の仕事上のトラブル N=17 | 35.3% | 11.8% | 29.4% | 17.6% | 5.9% |
| 精神面の病気・不調 N=63 | 65.1% | 14.3% | 12.7% | 6.3% | 1.6% |
| その他の病気・入院 N=24 | 45.8% | 29.2% | 20.8% | 0.0% | 4.2% |
| 家族の介護 N=15 | 33.3% | 33.3% | 6.7% | 13.3% | 13.3% |
| 結婚・出産・育児 N=26 | 65.4% | 11.5% | 15.4% | 3.8% | 3.8% |
| その他の個人的な深刻な悩み N=24 | 41.7% | 0.0% | 37.5% | 16.7% | 4.2% |

※1%水準で統計的に有意に値が大きい箇所(網掛け)に下線を付した。なお、Nの数によって違いがあるため、単純に%の値が大きい箇所が統計的に有意にならない。
 ※「その他の人」について、設問では(上司、人事部門の担当社員、公的機関または大学キャリアセンターの職員、友人・家族など)と注記。N=5以下の相談内容については割愛した。

図表6-16には、相談内容別の「キャリアや職業生活は変化したか」を示した。先に示したとおり基本的に「変化した」という回答の方が多いが、特に「変化しなかった」との%の差が統計的に有意に大きかったのは「転職」「将来のキャリア計画」「仕事内容」「残業や労働負荷」であった。

概して、これらは、相談することによってキャリアや職業生活に変化をもたらしやすい相談内容であったと言える。

図表6-16 相談内容別の「キャリアや職業生活は変化したか」

| | 変化した | 変化しなかった |
|-------------------------|-------|---------|
| 学生時代の就職活動 N=124 | 69.3% | 30.7% |
| (学生時代以外の)就職活動、求職活動 N=81 | 70.2% | 29.8% |
| 転職 N=403 | 69.6% | 30.4% |
| 会社の倒産・リストラ N=21 | 61.9% | 38.1% |
| 定年後の就職、仕事 N=23 | 64.5% | 35.5% |
| その他(職業選択) N=9 | 71.4% | 28.6% |
| 自分の職業の向き不向き N=180 | 70.0% | 30.0% |
| モチベーション・アップ N=136 | 70.1% | 29.9% |
| 職業能力の開発・能力アップ N=127 | 71.7% | 28.3% |
| 資格取得 N=88 | 75.0% | 25.0% |
| 進学・留学など N=19 | 75.0% | 25.0% |
| 将来のキャリア計画 N=110 | 75.8% | 24.2% |
| 仕事内容 N=259 | 70.3% | 29.7% |
| 賃金や処遇 N=159 | 69.1% | 30.9% |
| 残業や労働負荷 N=89 | 76.0% | 24.0% |
| 配置転換・出向・転籍 N=46 | 77.6% | 22.4% |
| 昇進・昇格 N=35 | 70.0% | 30.0% |
| 職場の同僚との人間関係 N=65 | 64.3% | 35.7% |
| 職場の上司との人間関係 N=92 | 72.8% | 27.2% |
| 職場の部下との人間関係 N=30 | 68.1% | 31.9% |
| 職場外の人との人間関係N=22 | 63.6% | 36.4% |
| 人間関係以外の仕事上のトラブル N=17 | 72.4% | 27.6% |
| 精神面の病気・不調 N=63 | 66.4% | 33.6% |
| その他の病気・入院 N=24 | 71.1% | 28.9% |
| 家族の介護 N=15 | 64.3% | 35.7% |
| 結婚・出産・育児 N=26 | 79.5% | 20.5% |
| その他の個人的な深刻な悩み N=24 | 73.0% | 27.0% |

1%水準で統計的に有意に値が大きい箇所に網掛け、統計的に有意に値が小さい箇所に下線を付した。なお、Nの数によって違いがあるため、単純に%の値が大きい箇所が統計的に有意にならない。N=5以下の相談内容については割愛した。

図表6-17では、「変化した」と回答した者を対象としたサブクエスションである「どのように変化したか」を相談内容別に整理した。以下に表から、統計的に有意な結果のうち、40%以上の値を示すセルに着目して解釈すると、以下の点を指摘しうる。

(1)「相談したことでどのように変化したか」については「将来のことがはっきりした」で40%を超える回答が多く見られた。特に「学生時代の就職活動」「定年後の就職、仕事」「モチベーション・アップ」「将来のキャリア計画」「配置転換・出向・転籍」「昇進・昇格」「職場の同僚との人間関係」などの相談内容の場合、相談することによって「将来のことがはっきりした」と統計的に有意に多く感じられていた。

(2)相談内容と相談したことによる変化が適切に対応している回答がみられた。例えば、「学生時代の就職活動」「(学生時代以外の)就職活動、求職活動」の相談内容では、まさに「就職できた」という変化が多く回答された。同様に「職業能力の開発・能力アップ」の相談内容では「職業能力がアップした」という変化が、「職場外の人との人間関係」の相談内容では「人間関係がよくなった」という変化が、「その他の個人的な深刻な悩み」の相談内容では「自分の問題が解決した」という変化が、統計的に有意に多く回答された。

(3)その他、相談内容と間接的に関連する変化と対応している回答もみられた。例えば、「定年後の就職、仕事」の相談内容では「自分の問題が解決した」の回答が多かった。「賃金や処遇」や「人間関係以外の仕事上のトラブル」の相談内容では「仕事を変わった、転職した」の回答が多かった。「職場外の人との人間関係」の相談内容では「職業能力がアップした」「労働条件がよくなった」という回答が多かった。

以上をまとめると、基本的には、就職やモチベーション、キャリア計画、出向、昇進、昇格、人間関係といった職業やキャリアに直結した相談内容では将来のことがはっきりすることが主だった変化と言える。ただし、例えば、職業能力のアップの相談をしてまさに職業能力がアップしたように、個々の相談内容に即した変化も、相談の結果、得られている。その他、賃金や処遇に関する相談をして結果的に仕事を変わったという変化や、人間関係の相談をして結果的に労働条件が良くなったといった間接的な変化もうかがえる結果がみられた。

図表6-17 相談内容別の「どのように変化したか」

| | 将来のことがはっきりした | 職業能力がアップした | 資格がとれた、学校に通えた | 就職できた | 労働条件がよくなった | 仕事を変わった、転職した | 人間関係がよくなった | ハラスメントやいじめがなくなった | 自分の問題が解決した | 家族の問題が解決した |
|------------------------|--------------|------------|---------------|-------|------------|--------------|------------|------------------|------------|------------|
| 学生時代の就職活動 N=124 | 60.9% | | | 43.5% | | | | | | |
| (学生時代以外)就職活動、求職活動 N=81 | | | | 42.4% | | | | | | |
| 転職 N=403 | | | | | | 39.7% | | | | |
| 会社の倒産・リストラ N=21 | | | 26.9% | | | | | | | |
| 定年後の就職、仕事 N=23 | 70.0% | | | | | | | | 50.0% | 15.0% |
| 自分の職業の向き不向き N=180 | | | | | | | | | 23.2% | |
| モチベーション・アップ N=136 | 49.7% | 39.2% | | | 23.1% | | 23.8% | | | |
| 職業能力の開発・能力アップ N=127 | | 43.2% | 20.5% | | 22.7% | | 21.2% | | 25.8% | |
| 資格取得 N=88 | | | 33.3% | | | | | 8.3% | | |
| 進学・留学など N=19 | | | | | | | | | | |
| 将来のキャリア計画 N=110 | 60.0% | | | | | | | | 32.0% | |
| 仕事内容 N=259 | | | | | | 33.9% | | | 21.7% | |
| 賃金や処遇 N=159 | | | | | 25.9% | 44.1% | | | | |
| 残業や労働負荷 N=89 | | | | | 27.4% | | 17.9% | 7.4% | 26.3% | |
| 配置転換・出向・転籍 N=46 | 57.7% | | | | | | | | | |
| 昇進・昇格 N=35 | 62.9% | | | | 31.4% | | | 8.6% | 34.3% | |
| 職場の同僚との人間関係 N=65 | 57.1% | | | | 27.0% | | 27.0% | 11.1% | | |
| 職場の上司との人間関係 N=92 | | | | | | | 24.5% | | | |
| 職場の部下との人間関係 N=30 | | | | | | | 34.4% | | | |
| 職場外の人との人間関係 N=22 | | 47.6% | | | 42.9% | | 47.6% | 14.3% | | 9.5% |
| 人間関係以外の仕事上のトラブル N=17 | | | | | | 52.4% | | | | |
| 精神面の病気・不調 N=63 | | | | | | | 22.8% | | 29.1% | 6.3% |
| その他の病気・入院 N=24 | | | | | | | | 11.1% | | |
| 家族の介護 N=15 | | | 27.8% | | | | 33.3% | 16.7% | | |
| 結婚・出産・育児 N=26 | | | | | | | | 8.6% | | |
| その他の個人的な深刻な悩み N=24 | | | | | | | | | 40.7% | 14.8% |

※表は、1%水準で統計的に有意なクロス表の結果を集約したもの。例えば、「学生時代の就職活動」の相談をした回答者の約6割が、1%水準で統計的に有意に「将来のことがはっきりした」と回答した。空欄は統計的に有意な結果が示されなかった箇所。
 ※40%以上の値を示すセルに網掛けを付した。

図表6-18には、相談による賃金の変化を相談内容別に検討した結果を示した。相談による賃金の変化が「高くなった」と回答した割合が他と比べて統計的に有意に多かったのは「転職」と「賃金や処遇」であった。一方で「低くなった」と回答した割合が他と比べて統

計的に有意に多かったのも「転職」であった。

図表6-18 相談内容別の「賃金の変化」

| | 高くなった | 変わらない | 低くなった | 分からない、答えられない |
|--------------------------|-------|-------|-------|--------------|
| 学生時代の就職活動 N=166 | 7.8% | 59.6% | 1.2% | 31.3% |
| (学生時代以外の)就職活動、求職活動 N=121 | 12.4% | 58.7% | 5.0% | 24.0% |
| 転職 N=601 | 21.6% | 56.7% | 7.5% | 14.1% |
| 会社の倒産・リストラ N=42 | 9.5% | 57.1% | 7.1% | 26.2% |
| 定年後の就職、仕事 N=31 | 16.1% | 67.7% | 3.2% | 12.9% |
| その他(職業選択) N=14 | 21.4% | 64.3% | 14.3% | 0.0% |
| 自分の職業の向き不向き N=277 | 13.7% | 62.1% | 5.4% | 18.8% |
| モチベーション・アップ N=204 | 18.6% | 66.7% | 5.4% | 9.3% |
| 職業能力の開発・能力アップ N=184 | 13.0% | 70.7% | 4.9% | 11.4% |
| 資格取得 N=112 | 19.6% | 63.4% | 1.8% | 15.2% |
| 進学・留学など N=28 | 10.7% | 57.1% | 0.0% | 32.1% |
| 将来のキャリア計画 N=165 | 20.0% | 61.2% | 7.9% | 10.9% |
| 仕事内容 N=394 | 16.8% | 60.7% | 6.6% | 16.0% |
| 賃金や処遇 N=246 | 21.5% | 58.9% | 7.3% | 12.2% |
| 残業や労働負荷 N=125 | 20.0% | 60.8% | 8.8% | 10.4% |
| 配置転換・出向・転籍 N=67 | 9.0% | 73.1% | 7.5% | 10.4% |
| 昇進・昇格 N=50 | 24.0% | 56.0% | 8.0% | 12.0% |
| 職場の同僚との人間関係 N=98 | 15.3% | 73.5% | 4.1% | 7.1% |
| 職場の上司との人間関係 N=151 | 12.6% | 72.2% | 6.0% | 9.3% |
| 職場の部下との人間関係 N=47 | 12.8% | 72.3% | 2.1% | 12.8% |
| 職場外の人との人間関係 N=33 | 9.1% | 69.7% | 3.0% | 18.2% |
| 人間関係以外の仕事上のトラブル N=29 | 10.3% | 69.0% | 6.9% | 13.8% |
| 精神面の病気・不調 N=119 | 12.6% | 73.9% | 3.4% | 10.1% |
| その他の病気・入院 N=38 | 10.5% | 71.1% | 2.6% | 15.8% |
| 家族の介護 N=28 | 14.3% | 71.4% | 0.0% | 14.3% |
| 結婚・出産・育児 N=44 | 13.6% | 70.5% | 4.5% | 11.4% |
| その他の個人的な深刻な悩み N=37 | 8.1% | 59.5% | 8.1% | 24.3% |

※1%水準で統計的に有意に値が大きい箇所に網掛け、統計的に有意に値が小さい箇所に下線を付した。なお、Nの数によって違いがあるため、単純に%の値が大きい箇所が統計的に有意にならない。N=5以下の相談内容については割愛した。

図表6-19には、相談による労働時間の変化を相談内容別に検討した結果を示した。相談による労働時間の変化が「短くなった」と回答した割合が、他と比べて、統計的に有意に多かったのは「転職」「残業や労働負荷」であった。「変わらない」と回答した割合が他と比べて多かったのは「モチベーション・アップ」であった。

概して、転職の相談に訪れた場合、賃金が高くなり、労働時間が短くなる場合が多いが、賃金は低くなる場合もあった。また、「賃金や処遇」を相談した場合は賃金が高くなる割合が高く、「残業や労働負荷」を相談した場合には労働時間が短くなる割合が高いなど、ある程度、相談内容に応じた変化が回答されていた。

図表6-19 相談内容別の「労働時間の変化」

| | 短く なった | 変わら ない | 長く なった | 分から ない、 答えら れない |
|--------------------------|-----------|-----------|-----------|--------------------------|
| 学生時代の就職活動 N=166 | 6.0% | 62.7% | 1.8% | 29.5% |
| (学生時代以外の)就職活動、求職活動 N=121 | 14.0% | 58.7% | 8.3% | 19.0% |
| 転職 N=601 | 18.5% | 63.1% | 6.7% | 11.8% |
| 会社の倒産・リストラ N=42 | 7.1% | 64.3% | 4.8% | 23.8% |
| 定年後の就職、仕事 N=31 | 16.1% | 71.0% | 6.5% | 6.5% |
| その他(職業選択) N=14 | 14.3% | 71.4% | 14.3% | 0.0% |
| 自分の職業の向き不向き N=277 | 17.0% | 62.8% | 4.3% | 15.9% |
| モチベーション・アップ N=204 | 14.7% | 75.5% | 3.4% | 6.4% |
| 職業能力の開発・能力アップ N=184 | 18.5% | 68.5% | 3.3% | 9.8% |
| 資格取得 N=112 | 18.8% | 67.9% | 3.6% | 9.8% |
| 進学・留学など N=28 | 14.3% | 50.0% | 3.6% | 32.1% |
| 将来のキャリア計画 N=165 | 15.2% | 70.3% | 4.8% | 9.7% |
| 仕事内容 N=394 | 14.7% | 66.2% | 5.6% | 13.5% |
| 賃金や処遇 N=246 | 16.3% | 67.1% | 6.1% | 10.6% |
| 残業や労働負荷 N=125 | 28.0% | 54.4% | 8.0% | 9.6% |
| 配置転換・出向・転籍 N=67 | 25.4% | 59.7% | 4.5% | 10.4% |
| 昇進・昇格 N=50 | 18.0% | 68.0% | 6.0% | 8.0% |
| 職場の同僚との人間関係 N=98 | 11.2% | 75.5% | 7.1% | 6.1% |
| 職場の上司との人間関係 N=151 | 13.9% | 76.2% | 4.0% | 6.0% |
| 職場の部下との人間関係 N=47 | 17.0% | 72.3% | 0.0% | 10.6% |
| 職場外の人との人間関係 N=33 | 9.1% | 69.7% | 9.1% | 12.1% |
| 人間関係以外の仕事上のトラブル N=29 | 17.2% | 65.5% | 6.9% | 10.3% |
| 精神面の病気・不調 N=119 | 11.8% | 77.3% | 6.7% | 4.2% |
| その他の病気・入院 N=38 | 23.7% | 63.2% | 2.6% | 10.5% |
| 家族の介護 N=28 | 14.3% | 75.0% | 0.0% | 10.7% |
| 結婚・出産・育児 N=44 | 13.6% | 72.7% | 4.5% | 9.1% |
| その他の個人的な深刻な悩み N=37 | 10.8% | 54.1% | 16.2% | 18.9% |

※1%水準で統計的に有意に値が大きい箇所(網掛け)、統計的に有意に値が小さい箇所(下線を付した)。なお、Nの数によって違いがあるため、単純に%の値が大きい箇所が統計的に有意にならない。N=5以下の相談内容については割愛した。

図表6-20には、相談内容別の「相談をして良かったか」の回答結果を示した。図表から「とても良かった」が他に比べて統計的に有意に多かったのは「将来のキャリア計画」であった。また、「やや良かった」が多かったのは「資格取得」であった。一方、「ほとんど良くなかった」が多かったのは「会社の倒産・リストラ」「その他の個人的な深刻な悩み」であった。

図表6-20 相談内容別の「相談をして良かったか」

| | とても良かった | やや良かった | どちらとも言えない | あまり良くなかった | ほとんど良くなかった |
|--------------------------|---------|--------|-----------|-----------|------------|
| 学生時代の就職活動 N=166 | 25.9% | 44.0% | 21.7% | 5.4% | 3.0% |
| (学生時代以外の)就職活動、求職活動 N=121 | 27.3% | 40.5% | 23.1% | 3.3% | 5.8% |
| 転職 N=601 | 26.5% | 44.3% | 23.0% | 3.5% | 2.8% |
| 会社の倒産・リストラ N=42 | 14.3% | 38.1% | 26.2% | 9.5% | 11.9% |
| 定年後の就職、仕事 N=31 | 12.9% | 58.1% | 19.4% | 3.2% | 6.5% |
| その他(職業選択) N=14 | 50.0% | 21.4% | 28.6% | 0.0% | 0.0% |
| 自分の職業の向き不向き N=277 | 28.9% | 43.0% | 23.5% | 3.2% | 1.4% |
| モチベーション・アップ N=204 | 27.5% | 43.6% | 21.6% | 2.9% | 4.4% |
| 職業能力の開発・能力アップ N=184 | 26.6% | 43.5% | 24.5% | 2.2% | 3.3% |
| 資格取得 N=112 | 28.6% | 54.5% | 12.5% | 0.9% | 3.6% |
| 進学・留学など N=28 | 21.4% | 46.4% | 14.3% | 7.1% | 10.7% |
| 将来のキャリア計画 N=165 | 38.2% | 38.8% | 17.0% | 1.8% | 4.2% |
| 仕事内容 N=394 | 26.9% | 45.9% | 22.1% | 2.8% | 2.3% |
| 賃金や処遇 N=246 | 26.0% | 46.3% | 20.7% | 4.1% | 2.8% |
| 残業や労働負荷 N=125 | 25.6% | 44.8% | 21.6% | 6.4% | 1.6% |
| 配置転換・出向・転籍 N=67 | 29.9% | 43.3% | 20.9% | 1.5% | 4.5% |
| 昇進・昇格 N=50 | 36.0% | 36.0% | 20.0% | 4.0% | 4.0% |
| 職場の同僚との人間関係 N=98 | 26.5% | 43.9% | 23.5% | 3.1% | 3.1% |
| 職場の上司との人間関係 N=151 | 25.8% | 46.4% | 20.5% | 2.0% | 5.3% |
| 職場の部下との人間関係 N=47 | 19.1% | 40.4% | 29.8% | 6.4% | 4.3% |
| 職場外の人との人間関係 N=33 | 15.2% | 48.5% | 24.2% | 3.0% | 9.1% |
| 人間関係以外の仕事上のトラブル N=29 | 27.6% | 41.4% | 17.2% | 3.4% | 10.3% |
| 精神面の病気・不調 N=119 | 29.4% | 42.9% | 21.0% | 4.2% | 2.5% |
| その他の病気・入院 N=38 | 28.9% | 42.1% | 18.4% | 7.9% | 2.6% |
| 家族の介護 N=28 | 21.4% | 46.4% | 14.3% | 7.1% | 10.7% |
| 結婚・出産・育児 N=44 | 27.3% | 54.5% | 6.8% | 6.8% | 4.5% |
| その他の個人的な深刻な悩み N=37 | 29.7% | 40.5% | 16.2% | 0.0% | 13.5% |

※1%水準で統計的に有意に値が大きい箇所に網掛け、統計的に有意に値が小さい箇所に下線を付した。なお、Nの数によって違いがあるため、単純に%の値が大きい箇所が統計的に有意にならない。N=5以下の相談内容については割愛した。

図表6-21には、相談内容別の「相談をして役立ったか」の回答結果を示した。図表から「とても役立った」が他に比べて統計的に有意に多かったのは「資格取得」「将来のキャリア計画」であった。

以上の結果から、一般に、相談をして良かった・役立ったと感じられる相談は「資格取得」や「将来のキャリア計画」などのキャリア開発、能力開発に関する内容の相談であったと言える。一方で、相談をして良かったと感じられない相談は、個人の力ではいかんともしがたい課題・問題が生じやすい倒産・リストラに関する相談、また違った意味で個人の手に余る深刻な悩みに関する相談であったと考えられる。

図表6-21 相談内容別の「相談をして役立ったか」

| | とても 役立った | やや 役立った | どちら とも 言えない | あまり 役立た なかった | ほとんど 役立た なかった |
|--------------------------|-------------|------------|-------------------|--------------------|---------------------|
| 学生時代の就職活動 N=166 | 21.1% | 45.8% | 24.1% | 4.8% | 4.2% |
| (学生時代以外の)就職活動、求職活動 N=121 | 22.3% | 41.3% | 24.8% | 5.0% | 6.6% |
| 転職 N=601 | 23.0% | 45.3% | 22.3% | 5.7% | 3.8% |
| 会社の倒産・リストラ N=42 | 16.7% | 40.5% | 16.7% | 19.0% | 7.1% |
| 定年後の就職、仕事 N=31 | 16.1% | 48.4% | 22.6% | 6.5% | 6.5% |
| その他(職業選択) N=14 | 35.7% | 42.9% | 21.4% | 0.0% | 0.0% |
| 自分の職業の向き不向き N=277 | 25.3% | 45.5% | 21.3% | 3.6% | 4.3% |
| モチベーション・アップ N=204 | 25.0% | 45.6% | 20.6% | 4.4% | 4.4% |
| 職業能力の開発・能力アップ N=184 | 25.0% | 42.9% | 23.4% | 4.3% | 4.3% |
| 資格取得 N=112 | 28.6% | 50.9% | 13.4% | 1.8% | 5.4% |
| 進学・留学など N=28 | 32.1% | 42.9% | 14.3% | 3.6% | 7.1% |
| 将来のキャリア計画 N=165 | 37.6% | 37.6% | 17.0% | 3.6% | 4.2% |
| 仕事内容 N=394 | 23.1% | 46.2% | 22.8% | 4.3% | 3.6% |
| 賃金や処遇 N=246 | 23.2% | 45.5% | 21.5% | 5.7% | 4.1% |
| 残業や労働負荷 N=125 | 24.0% | 48.0% | 19.2% | 4.8% | 4.0% |
| 配置転換・出向・転籍 N=67 | 31.3% | 40.3% | 23.9% | 1.5% | 3.0% |
| 昇進・昇格 N=50 | 36.0% | 36.0% | 20.0% | 4.0% | 4.0% |
| 職場の同僚との人間関係 N=98 | 21.4% | 46.9% | 23.5% | 5.1% | 3.1% |
| 職場の上司との人間関係 N=151 | 21.2% | 49.7% | 21.2% | 4.0% | 4.0% |
| 職場の部下との人間関係 N=47 | 19.1% | 38.3% | 23.4% | 14.9% | 4.3% |
| 職場外の人との人間関係 N=33 | 18.2% | 45.5% | 30.3% | 0.0% | 6.1% |
| 人間関係以外の仕事上のトラブル N=29 | 34.5% | 34.5% | 17.2% | 3.4% | 10.3% |
| 精神面の病気・不調 N=119 | 22.7% | 47.1% | 23.5% | 3.4% | 3.4% |
| その他の病気・入院 N=38 | 26.3% | 50.0% | 15.8% | 5.3% | 2.6% |
| 家族の介護 N=28 | 17.9% | 35.7% | 28.6% | 10.7% | 7.1% |
| 結婚・出産・育児 N=44 | 22.7% | 50.0% | 22.7% | 0.0% | 4.5% |
| その他の個人的な深刻な悩み N=37 | 27.0% | 37.8% | 21.6% | 0.0% | 13.5% |

※1%水準で統計的に有意に値が大きい箇所に網掛け、統計的に有意に値が小さい箇所に下線を付した。なお、Nの数によって違いがあるため、単純に%の値が大きい箇所が統計的に有意にならない。N=5以下の相談内容については割愛した。

4. 本章の結果のまとめ

本章の結果を以下に整理する。

第一に、キャリアコンサルティングについて「相談したことで問題は解決したか」「相談したことでキャリアや職業生活は変化したか」「相談して良かったか」「相談してその後の職業やキャリアに役立ったか」をたずねた結果、総じて、「問題は解決した」(66.5%)、「キャリアや職業生活は変化した」(65.1%)、「とても良かった+やや良かった」(71.1%)、「とても役立った+やや役立った」(64.9%)と、いずれも6～7割の回答者が肯定的に回答していた。キャリアコンサルティング経験がある者が、最も影響を受けた相談を思い浮かべて回答した時、概してキャリアコンサルティングによって問題は解決し、キャリアや職業生活は変化した、相談して良かった、役立ったと受け止められていたことを指摘できる。

第二に、キャリアコンサルティングの結果、どのような面で変化したかをたずねた結果では、「将来のことがはっきりした」(40.0%)、「就職できた」(28.1%)、「仕事を変った、転職した」(27.8%)が上位3位であった。キャリアコンサルティングの効果とは、すなわち将来のことをはっきりさせ、就職や転職ができるようにすることであったと整理できる。

第三に、個人特性との関連については、年齢と個人年収で明確な関連がみられた。具体的には、40代後半から50代前半または年収が低い者ではキャリアコンサルティングの効果は肯定的に受け止められていなかった。この結果は、むしろ20代および30代ぐらいの比較的若い労働者、または年収が高い者ではキャリアコンサルティングの効果は肯定的に受け止められていたと解釈できる結果でもあった。ただし、この背景については、今後、さらに検討を進める必要がある。

第四に、概してキャリア意識面との関連は明確にみられた。例えば、現在の職業生活やキャリアに対する満足感が高い場合、もしくは総じてキャリア意識が高い場合、過去のキャリアコンサルティングで問題は解決した、相談によって変化した、相談して良かった役立ったと感じることが示された。これは逆方向に解釈することも可能であり、過去のキャリアコンサルティングを肯定的に受け止めているほど、現在の満足感が高く、総じてキャリア意識が高いといった結果とも考えることができる。

第五に、本章における重要な結果は、相談内容との関連で見られた。図表6-22には、本章で統計的に有意な結果がみられた相談内容をまとめたものである(なお、表が煩雑になるため、統計的に有意な結果がみられなかった相談内容および「問題は解決した」の内訳に関する結果は割愛した)。したがって、表に示された相談内容は何らかの側面でキャリアコンサルティングの効果があった相談内容だと言える。なかでも、「転職」「資格取得」「将来のキャリア計画」「職場外の人との人間関係」は多くの結果がみられた相談内容であり、キャリアコンサルティングの効果があった相談内容であると考えられる。ただし、その他の相談内容についても、例えば、「学生時代の就職活動」では将来のことがはっきりし、就職できた、「賃金や処遇」では仕事を変った、転職した、賃金が高くなったという回答が多かつ

たとおり、相談内容に応じた効果がおおむね見られていた。

第六に、ただし注意すべきは、ネガティブな方向で結果が得られていた相談内容である。具体的には「精神面の病気、不調」と「その他の個人的な深刻な悩み」である。この2つの相談内容では、問題は解決しなかったあるいは相談してほとんど良くなかったという結果が相対的にやや多かった。これらの相談内容は端的にはキャリアコンサルティングの対象から外れる相談内容であるために、キャリアコンサルタントその他の職業・キャリアの相談の専門家にとっては十分な対応ができなかった可能性がある。これらの相談内容について、従来は適切な見立てやり方とといった方向に議論が展開されるのが一般的であったが、一方で、実際にこうした相談内容がキャリアコンサルティングに持ち込まれる現状にあるのだという認識はよりいっそう深く持つべきかと思われる。キャリアコンサルティングとの関わりでどのような相談支援が可能なのか、改めて検討すべき段階にあるとも言えよう。

図表6-22 相談内容とキャリアコンサルティングの効果に関する結果のまとめ

| | |
|--------------------------|--|
| 学生時代の就職活動 N=166 | 「将来のことがはっきりした」 「就職できた」 |
| (学生時代以外の)就職活動、求職活動 N=121 | 「就職できた」 |
| 転職 N=601 | 「キャリアや職業生活は変化した」 「賃金が高くなった」 「賃金が低くなった」 「労働時間が短くなった」 |
| 会社の倒産・リストラ N=42 | 「相談してほとんど良くなかった」 |
| 定年後の就職、仕事 N=31 | 「将来のことがはっきりした」 「自分の問題が解決した」 |
| モチベーション・アップ N=204 | 「将来のことがはっきりした」 |
| 職業能力の開発・能力アップ N=184 | 「職業能力がアップした」 |
| 資格取得 N=112 | 「問題は解決した」 「相談してやや良かった」 「とても役立った」 |
| 将来のキャリア計画 N=165 | 「キャリアや職業生活は変化した」 「将来のことがはっきりした」 「相談してとても良かった」 「とても役立った」 |
| 仕事内容 N=394 | 「キャリアや職業生活は変化した」 |
| 賃金や処遇 N=246 | 「仕事を変わった、転職した」 「賃金が高くなった」 |
| 残業や労働負荷 N=125 | 「キャリアや職業生活は変化した」 「労働時間が短くなった」 |
| 配置転換・出向・転籍 N=67 | 「将来のことがはっきりした」 |
| 昇進・昇格 N=50 | 「将来のことがはっきりした」 |
| 職場外の人との人間関係 N=33 | 「職業能力がアップした」 「労働条件がよくなった」 「人間関係がよくなった」 |
| 人間関係以外の仕事上のトラブル N=29 | 「仕事を変わった、転職した」 |
| 精神面の病気・不調 N=119 | 「問題は解決しなかった」 |
| その他の個人的な深刻な悩み N=37 | 「自分の問題が解決した」 「相談してほとんど良くなかった」 |